

令和7年度 第1回深谷市子ども・子育て会議
議事要旨

日 時：令和7年7月28日（月）午後2時00分～午後3時15分

場 所：深谷市役所 会議室2-4

出席者：小谷野 沙織委員、神戸 幸委員、萩原 徹也委員、那須 信也委員、押野見 孝道委員、小林 美保委員、神庭 ひろ子委員、森 典子委員、川田 真由美委員、奥富 庸一委員、戸野倉 和美委員、大木 正仁委員（12名）

欠席者：橋本 亜希委員、金子 京子委員、山田 頼子委員（3名）

<配布資料>

- ・資料1 （仮称）深谷市こども館の設置条例（案）骨子について
- ・資料2 深谷市立学校設置条例の改正について
- ・資料3 深谷市立幼稚園の利用定員変更について
- ・資料4 第2期深谷市子ども・子育て支援事業計画進捗状況について
- ・資料5 第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）
乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の量の見込み及び確保の方策について
- ・別紙1 こども計画及び子ども・子育て会議について
- ・別紙2 深谷市子ども・子育て会議 用語と定義について
- ・別紙3 深谷市子ども・子育て会議条例

開会前に委嘱状交付

－ 1. 開会－

司会（大野課長補佐）

－ 2. 正副会長の選出－

会長には奥富委員、副会長には戸野倉委員が選任された。

－ 3. 議事－

規定により奥富会長が議長となり議事を進行する

（1）報告事項

- ①（仮称）深谷市こども館の設置条例（案）骨子について
（事務局：資料1について説明）

委 員：こども館の開所はいつ頃になるか。

事 務 局：令和8年4月の開所を予定している。

②深谷市立学校設置条例について

(事務局：資料 2 について説明)

質問なし

③深谷市立幼稚園の利用定員変更について

(事務局：資料 3 について説明)

委員：今年度の、深谷幼稚園・深谷西幼稚園・藤沢幼稚園には、合わせて何名のこども達が入園しているのか。基本的には、このこども達が、ふかや幼稚園に移る、ということで良いか。

事務局：学年が上がるので若干前後することになるが、3園の3・4・5歳全て合わせて93名になる。

委員：この議題に、直接的に関わることはないが、これから少子化が進む中で、どの保育園や幼稚園も定員割れが生じていくことになると思う。そうするとどのような形で、どの保育園・幼稚園を残す、という話になってくる。そうした中で、新しく公立の幼稚園ができるとなると、私立で経営している園を圧迫してしまう可能性がある。今、保育園に入園しているこどもたちも、ここに行ってしまうかもしれない、ということを保育園の人たちや小規模園の人たちも、心配しているのではないか、と思う。新しく幼稚園ができるということは、市民としては喜ばしいことだが、その点については、考えていかななくてはいけないと思い、話をさせてもらった。

④第2期深谷市子ども・子育て支援事業計画進捗状況について

(事務局：資料 4 について説明)

質問なし

(2) 協議事項

①第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の量の見込み及び確保の方策について

(事務局：資料 5 について説明)

委員：現状、量の見込みと確保の方策は、令和11年度まで書かれているが、これは途中で見直しをするということはあるか。

事務局：こちらの量の見込みと確保の方策と、大きな数字の乖離があれば見直しを予定している。

委員：実態に沿って、適宜見直しをしていただけるということで、承知した。

委員：こども誰でも通園制度というのは、0歳から3歳未満ということで、小規模保育園は、その年齢のこどもが対象となる。具体的な受け入れ方法や、料金の体制など、細かな課題が多々あるが、このこども誰でも通園制度の場合は、1ヶ月に10時間という制限の中で、同じこどもがその時間を使ってくるのか、それとも違うこどもがバラバラに来るのかという点も、具体的にどうなるのか、決まってきたら、知らせてもらいたい。

事務局：国から情報が来次第、随時情報提供していく。

委員：今までにない制度ということもあり、他の近隣市町村では、まだ始められていないところもある中で、深谷市は来年本格スタートできるよう準備を進めていることだと思う。

今までの一時預かりと何が違うのかと言うと、今までの一時預かりは、あくまでも保護者のための制度であり、こども誰でも通園制度は、こどもたちをどうサポートしていけるかというところに観点を当てた制度で、見た目は同じだと思うが、趣旨が違ってきていると感じる。

ただ、現場の立場としてみれば、今までと全く違う子たちが急に来る、という形だと、今ある教室の中で空いている部分があるところに受け入れていく、というような状況になり、混乱してくると思う。そうしたところで、深谷市としては、深谷のこどもたちをしっかりとサポートしていくための、こども誰でも通園制度だということをしっかりと打ち出して、事業者も含めて早めに準備をしていけるように調整をしていただきたい。

また、参考までに聞きたいのだが、先ほども、量の見込み等は途中で調整することもあるのか、という話があったが、今、何園ぐらい、この制度に協力するものとして手を挙げているのか。また、少子化の影響で人数が定員までいかないというところが増える中、手を挙げる事業者が増えることで、受け入れ体制が増えていくという状況もあり得るのかというところを知りたい。

事務局：4月のときに実施した意向調査では、20箇所の園から協力する意向を示していただいた。年度ごとに統計調査をしているが、年度が進むに従って、少しずつ受け入れの意向が増えているような状況となっている。

委員：毎年、各園に受入れの意向調査を行って、深谷市としての受け入れの人数を決めていくというイメージなのか。

事務局：その園に対して認可をし、それ以降は新たに加わる園について、追加で認可していく形を考えている。そのため、受け入れ施設がどんどん増えていくという形になるかと思うが、様子を見ながら実施していく。

委員：また、色々決まった時点で教えていただきたい。

会長：以上、この協議事項について承認いただけるか。（拍手）原案どおり承認された。

－ 5. その他－

事務局：次回の会議について、来年1月以降の開催を予定している。

－ 6. 閉会－

副会長：以上をもって、令和7年度第1回深谷市子ども・子育て会議を終了する。

（以上、終了）